臨　書　課　題

高橋香樹会長担当　（５月22日締切）

薦季直表（せんきちょくひょう）・鍾繇（しょうよう）

第三回

1、字句＝先帝賞以

2、形式＝半紙タテ使用。右に「先帝」、左に「賞以」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と書き入れる。

3、概観＝今回は、「薦季直表」の特長をみてみる。

○形は総じて偏平で、向勢にとられている。

○点画はきちっとくっつけることなく、余白を広くとることにより、明るく豊かな感じがする。

○偏と旁の間を少し広くとる。こうした構えは悠然とした感じと明るさを持つことになる。

○文字により、横画を広くひくことにより、文字形は横に広い形となる。

○転折は丸味をもたせ、純朴で温和な感じとなる。

○縦画は総じて肉太に。

4、各字のポイント

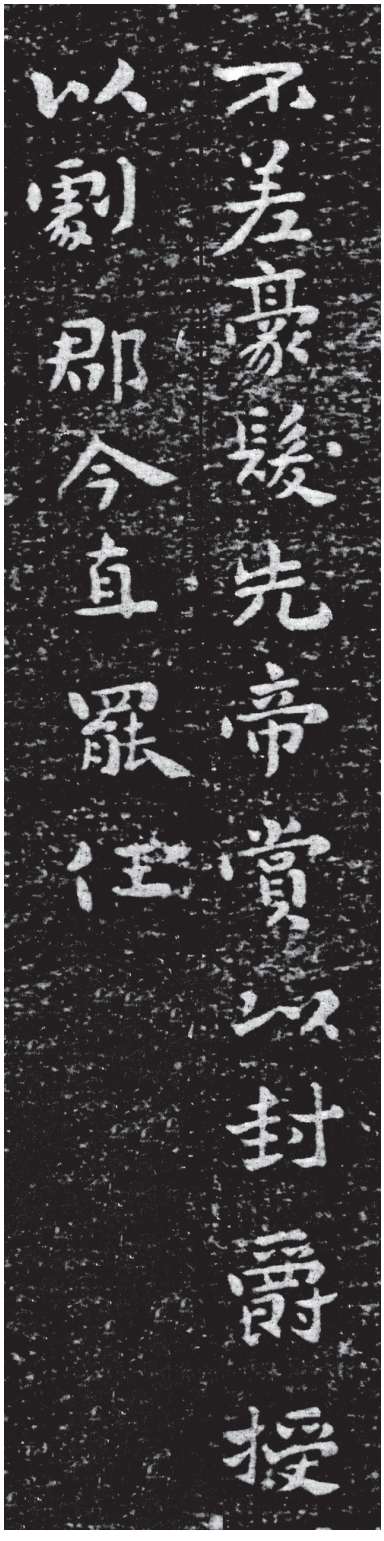
先　五・六画目は間を広くとることにより幅広、扁平の作となる。「儿」は起筆やや強く、△で止まり終画に向かって圧を加えていく。

帝　行意が感じられる。左右の縦画は下すぼまりにし、収画は左下に軽く抜く。字形は菱形。

賞　上部は充分に伸びて下部を抱くように。「貝」二画目の横画は欠けているかと思わせる程わずか。三・四画目は、二画目の縦画と離す。

以　二・三画目は連綿されており、行意を感じさせる。

条幅・半紙　随意参考



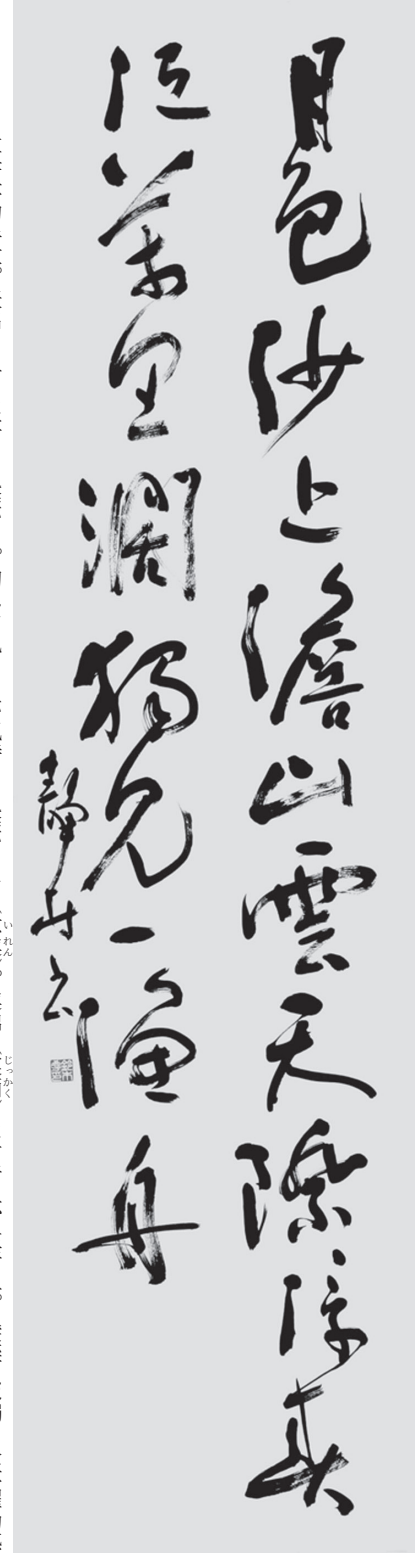
不差毫髮。先帝賞以封爵。授以劇郡。今直罷任。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部は無料。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「**条臨**」と記入。

条幅部漢字課題参考　（五月二十二日締切）

A

鈴木静村先生書



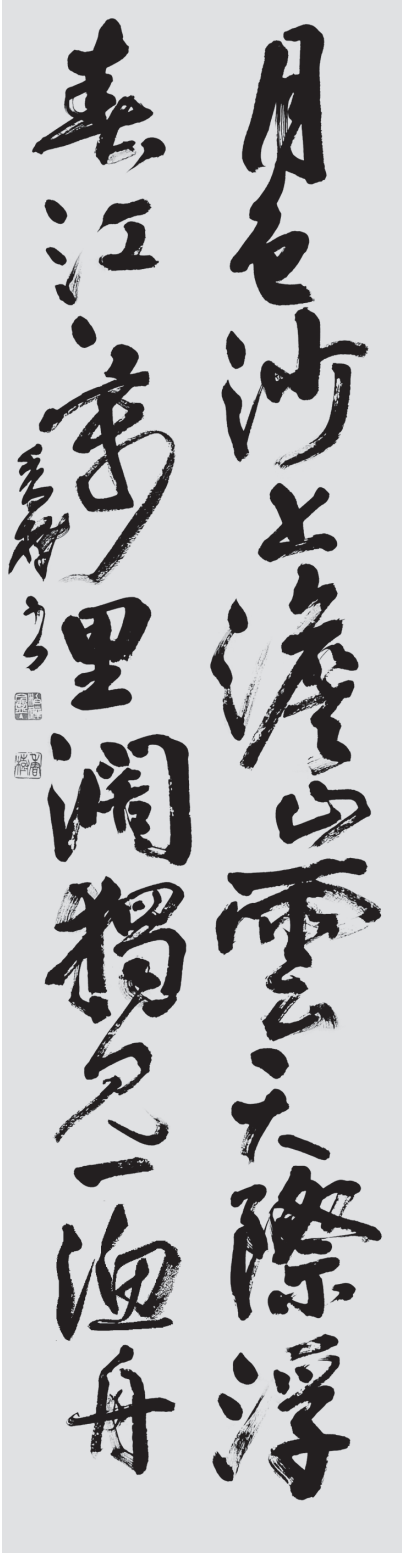
月色沙上澹　山雲天際浮　春江萬里闊　獨見一漁舟（辺貢「雑詩」）

月色沙上に澹（あわ）く、山雲天際に浮かぶ。春江萬里闊（ひろ）く、独（ひと）り一漁舟を見る。

草書体約半数。表出の狙いは字々の繋がり。切れて見えるが気持ちの繋がりを（意連（いれん））。連綿（実画（じっかく））は右行二、左行二。墨継ぎ**天獨**　全体躍動感の表出に向けて――。

B

髙橋香樹会長書



今回は二十字の課題。はじめは草書を多くする構成ではじめたが、徐々に行書が増え2/3となってしまった。文字の大小も意識して、画数の少ない文字を小さくした。「**闊**」はサンズイを「門」の外におく字が意外と多い。サンズイは行の流れをつけるには有効に使える。墨継ぎは「**天**」と「**里**」。

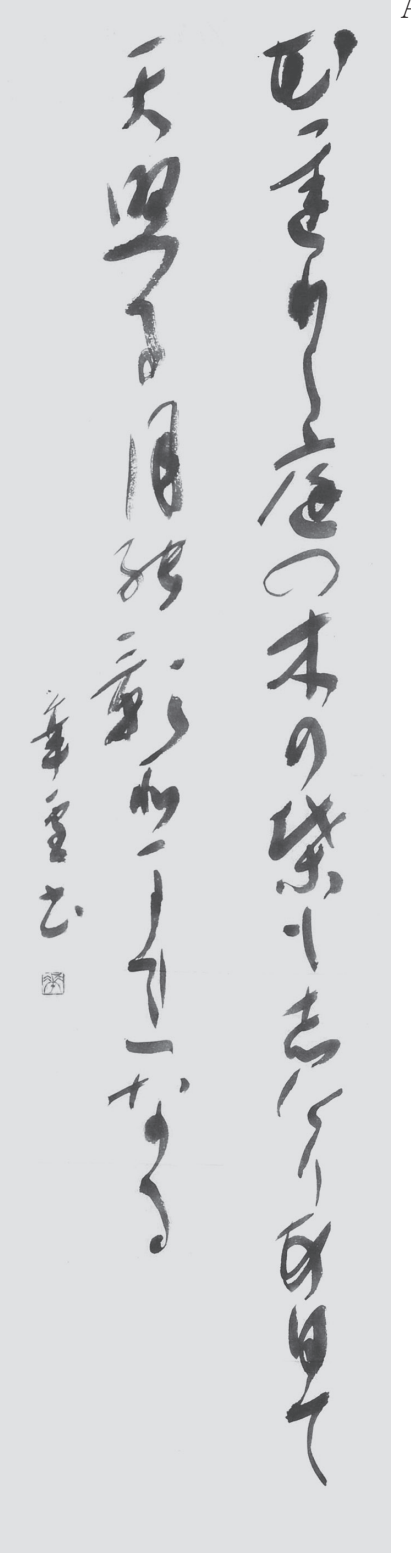
訳…月色は岸辺の沙（すな）を淡く照らし、山雲は遠く天際に浮かんでいる。春江は万里もあるほどに広々と、その中に一漁舟がぽつねんと浮かんで見える。

予告（六月二十二日締切）　**嵐光入壁圖書潤　草色侵帷枕席開（良琦）**

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部かな課題参考　（五月二十二日締切）

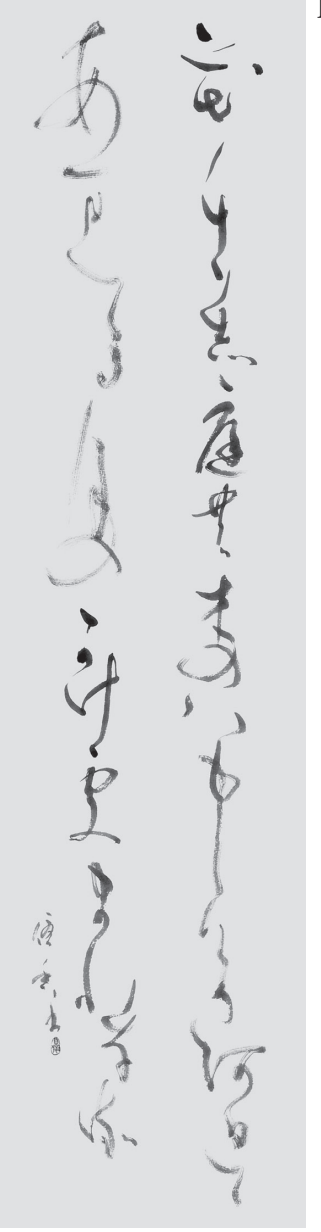
A



平岡華雪先生書

花ちりし庭の木の葉もしげりあひて天てる月のかげぞまれなる（新古今和歌集　曾禰好忠）
花遅利し庭の木の葉も志介りあ日て天照る月能影所万連なる

B



本澤優香先生書

花千り志庭農木の八もし介利阿日てあ万てる月の可け處末れ奈流

曾禰好忠（そねのよしただ）は、平安時代中期の歌人。出自については未詳。中古三十六歌仙の一人である。
当時としては、和歌の新しい形式である、「百首歌」を創始し、さらに一年を三六〇首に歌いこめた「毎月集」を作った。新奇な題材や『万葉集』の古語を用いて斬新な和歌を詠み、平安時代後期の革新歌人から再評価された。

学び方

歌意…花の散った庭の木々の葉も茂り合い、大空に照る月の光がほとんど漏れてこなくなったことだ。

作品について

○出だしの「**花**」はあまり大きくならないよう静かに書き始めます。
○墨が枯れてくる一行目の下部の「**八**・**も**・**し**・**介**・**利**」は、タテの流れを意識しました。
○二行目上部は複雑な文字がないので大きく腕を動かし、ゆったりと筆を配びました。
○二行目の「**あ**」「**万**」「**て**」の一画目・「**處**」と「**末**」の横画の方向が似ないよう工夫してみて下さい。
○墨継ぎは「**可**」。静かに落筆し、「**奈**」を右に傾け「**流**」で中心線に収めるようにしました。

予告（六月二十二日締切）　**風そよぐならのをがはのゆふぐれはみそぎぞ夏のしるしなりける**（藤原家隆）

◆**注　意**　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

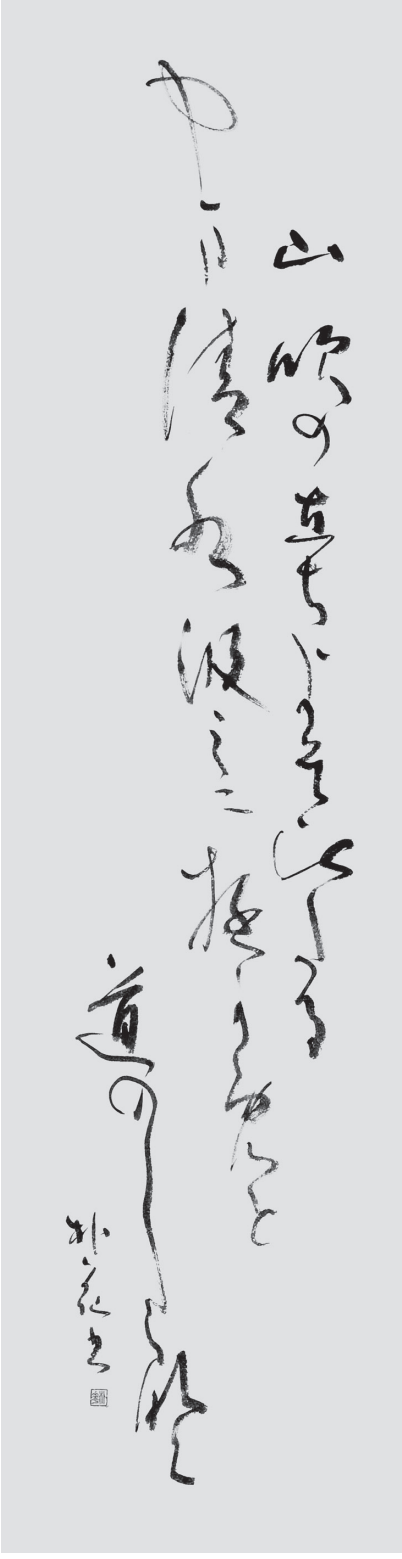
条幅部随意参考

吉岡麗江先生書

心清即道機（李俊民）
心清きは即ち道機。

訳…心に汚れなくして清きは則ち道心が発したのである。

向山朴花先生書

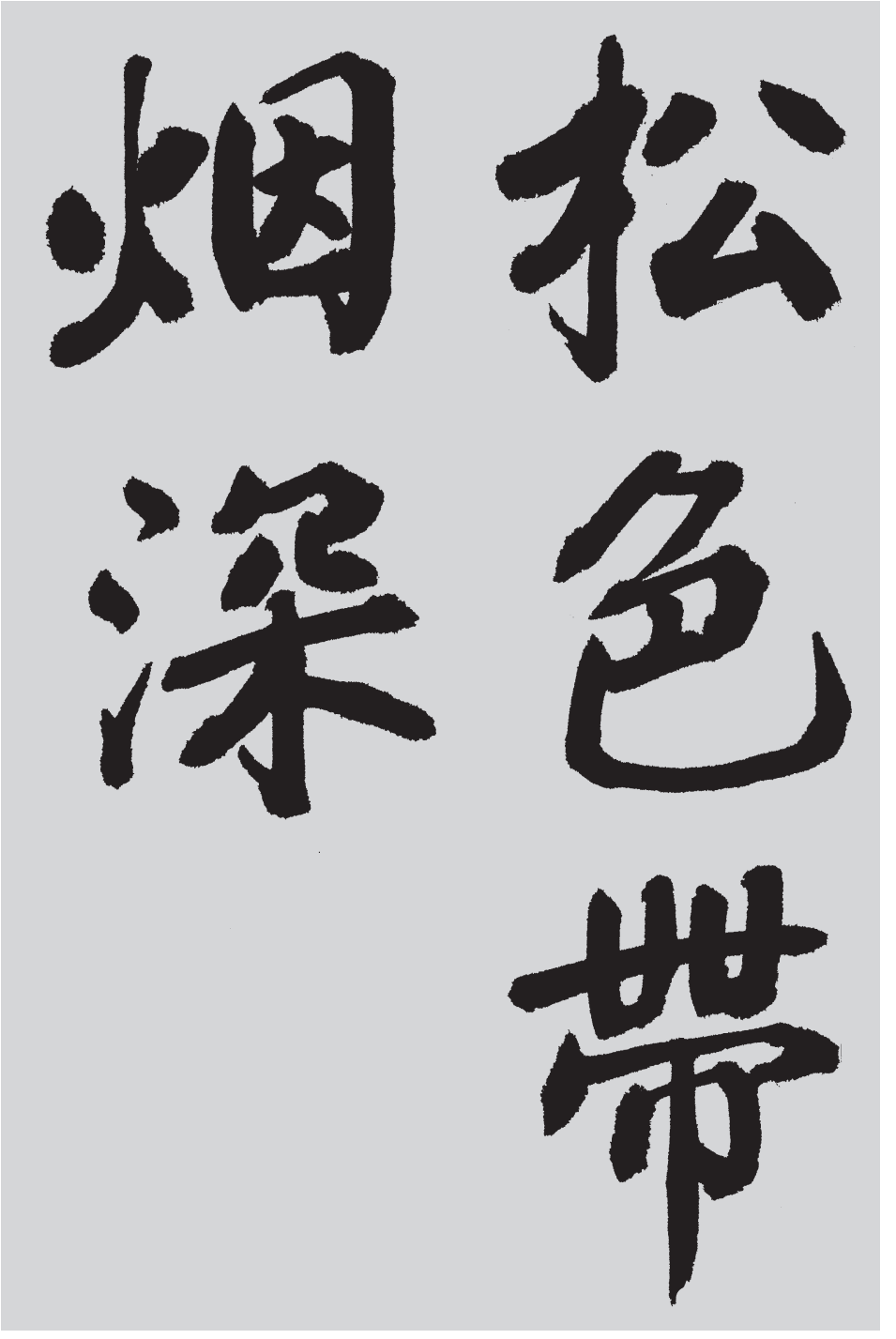


山吹の立ちよそひたる山清水汲みにゆかめど道の知らなく（万葉集　高市皇子）
山吹の立ちよそ比多るや万清水汲三二遊可免と道のしら那久

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（１）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

漢字部課題参考　（五月二十二日締切）

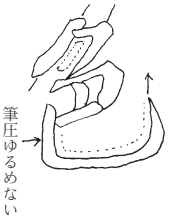
予告（六月二十二日締切）　清風入梧竹（楊師道）



平岡華雪先生書

松色烟を帯びて深し（張謂）
訳…松は雨にけむって緑の色が深い。

〈主な文字について〉
・**色**　一画目は左へ突き出した例は多い。四画目の点はなくてもよい。
・**帯**　〝蘭亭序〟にあり。参考のこと。
・**深**　旁の形〝欧陽詢〟、他にも各種、字典を見て。



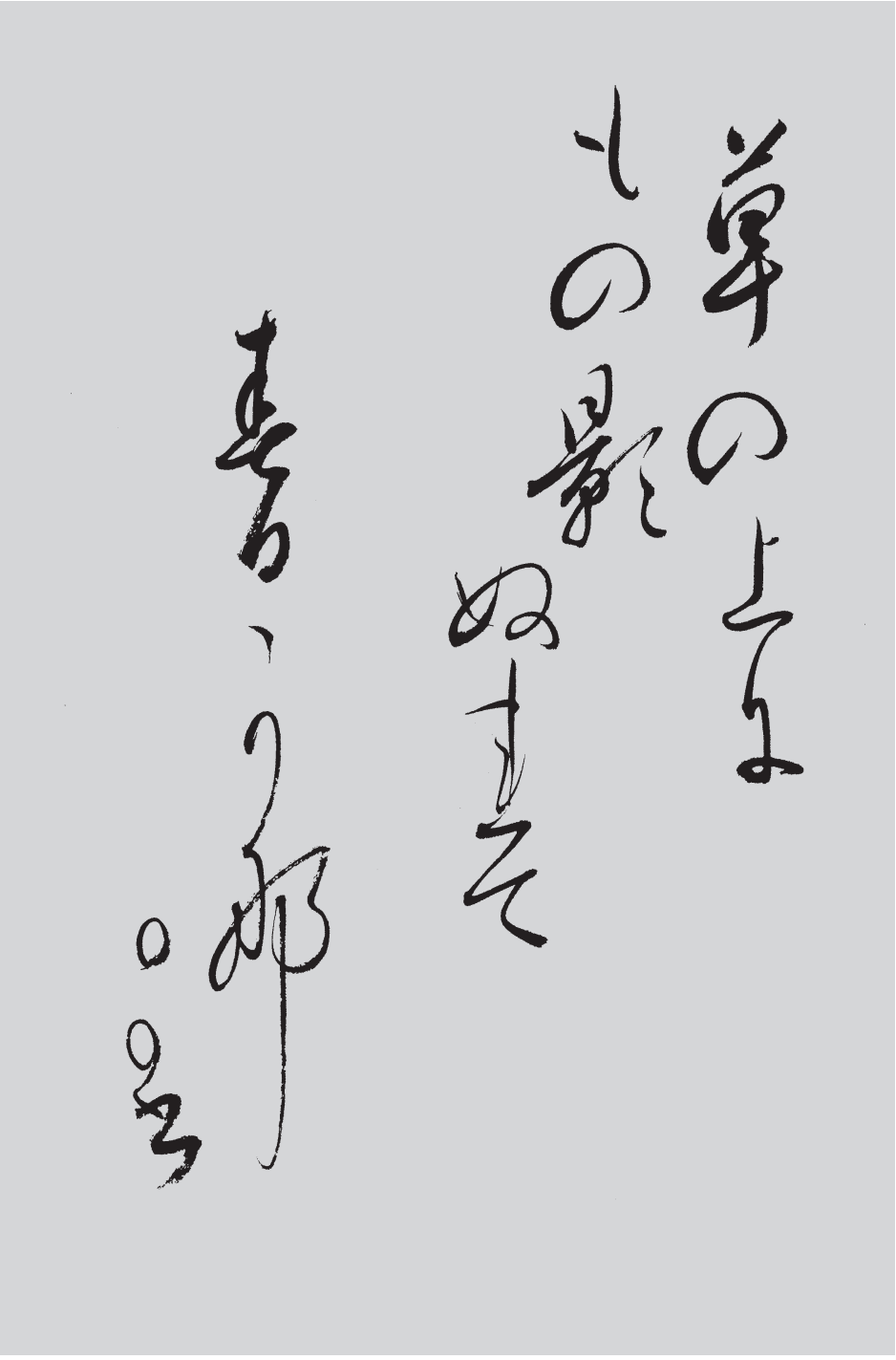
◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。
①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

かな部課題参考　（五月二十二日締切）

平岡華雪先生書

草の上にもの影ぬれて春日かな（虚子）

草の上尓もの影ぬ連て春日可那



〈主な着眼点〉

字粒も大きく、全体平明な表出。変体がな四文字（**尓・連・可・那**）も明解。連綿も基礎的で、初歩段階には適切な手本。「**ぬ連て**」よく使われる連綿。「**可那**」、この変体がな連綿も多い。背臨で〝リズム〟を体得してほしい。

予告（六月二十二日締切）　**水無月の埋火ひとつしづかなり（暁臺）**

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。
①かな部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢字かな交じりの書課題参考（五月二十二日締切）

董咲く春は夢殿日おもてを石段の目に乾く埴土（北原白秋）

水貝潮華先生書

今月の課題は、法隆寺の夢殿を讃美した歌です。紙面を大きく二つの塊に分け、塊ごとに、前行の文字の隙間を狙って、次行の文字をはめ込み、流れを作り出します。その際、単調を避けるために、強弱をつけ、特に漢字部分に、グッと圧を加えながら、リズミカルに筆を運んでいきます。

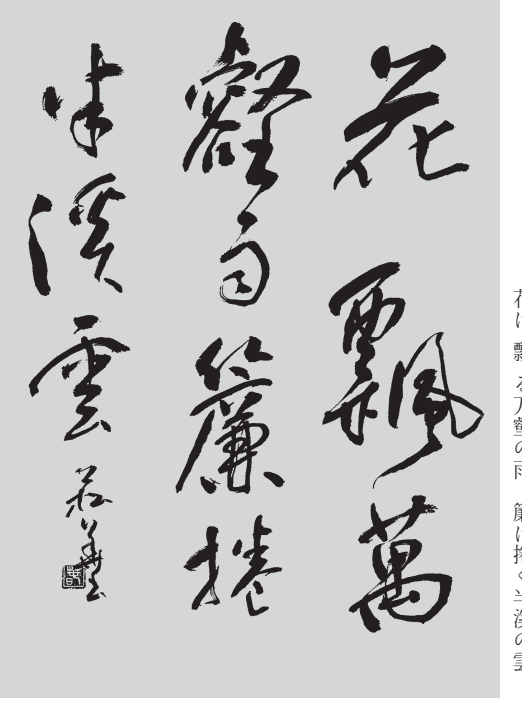
(1)出品料五五〇円　(2)バーコード券余白に「**漢か**」と記入

一字書課題（五月二十二日締切）

掛

(1)書体自由　(2)半紙タテ
(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(4)出品料　四四〇円
(5)バーコード券の余白に「**一字書**」と記入

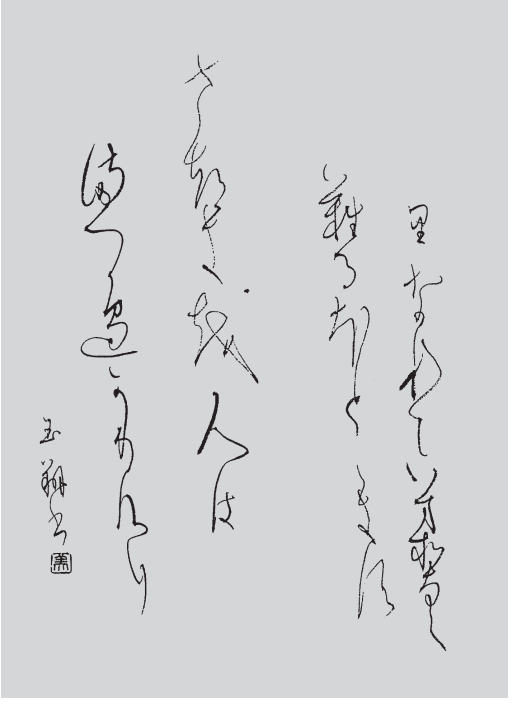
随意部参考　小暮菘華先生書



花飄萬壑雨　簾捲半溪雲（王英）
花は飄る万壑の雨、簾は捲く半溪の雲。

訳…花は多くの谷々に降る雨にひらひらと散り、簾は溪川半分の雲に捲き上げるのである。

随意部参考　福田玉翔先生書



里なれて今ぞ鳴くなるほとゝぎすさつきを人は待つべかりけり
里なれてい万所奈久難る本とゝ支須さ都支越人は満つ邊可利介り

（後嵯峨院）

楷、行、草、三　体　参　考

勝間凜華先生書

魚海路常難（杜甫）
魚海（ぎょかい）　路（みち）　常（つね）に難（かた）し

訳…魚海への道は遮断されて、通（かよ）いにくいのが通常の状態となっている。

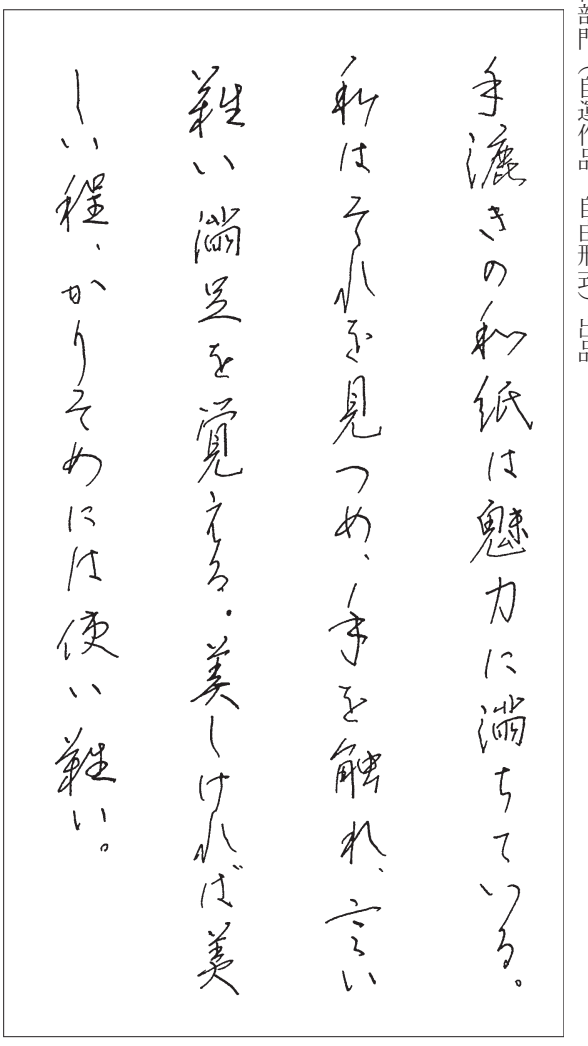
1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は460円。

硬筆部昇試課題参考　（五月二十二日締切）

正教授　創作部門（自運作品、自由形式）出品。

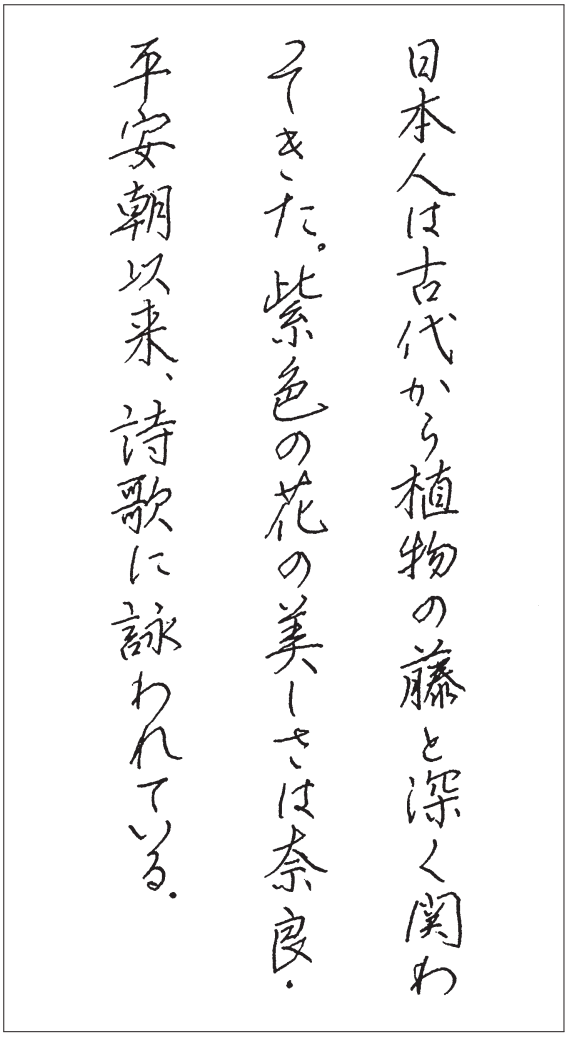
石原春香先生書

昇試課題１　（師範以下初段以上）



稲畑曄穂先生書

昇試課題２　（初段格以下）



課題１（師範以下初段以上）

手漉きの和紙は魅力に満ちている。私はそれを見つめ、手を触れ、言い難い満足を覚える。美しければ美しい程、かりそめには使い難い。

（『和紙の美』柳　宗悦）

課題２（初段格以下）

日本人は古代から植物の藤（ふじ）と深く関わってきた。紫色の花の美しさは奈良・平安朝以来、詩歌に詠（うた）われている。

（泉　宣道）

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）
(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(5) 受験料は一、〇二〇円
(6) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。（返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。）

課題１　九九〇円
課題２　五五〇円